

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び

II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成

III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築

IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成

V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福岡県 】

県立玄洋高等学校

1 実践テーマ	【 I 】
2 実施対象者	福岡県立玄洋高等学校 全校生徒896名 教職員 65名 地域来賓・本校保護者 16名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 (平成30年度創立記念講演会) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピックを通じて「スポーツの価値観や効果」などに関する学びの機会を提供し、本校生徒がスポーツに対する理解を深め、積極的にスポーツ活動に参画する態度を身につけるとともに2020年東京大会に多くの生徒が主体的に取り組む態度を育成する。
5 取組内容	(1) 講演・実技体験 講師：成迫 健児氏（なりさこ けんじ） 北京オリンピック大会 陸上競技 日本代表 演題：「限界への挑戦」 (2) 実技体験 講師：成迫 健児氏（なりさこ けんじ） 北京オリンピック大会 陸上競技 日本代表 体験内容：本校陸上競技部へのハードリングの実技指導



6 主な成果

講演について

【生徒の感想文から】

○今日の話を聴いて、努力はとても大切だと気づきました。自分もスポーツをしていた時、練習不足や固定観念にとらわれて、成長できなかったのではないかと感じます。これからは自分に必要だと思うことを大切にしていきたいです。（1年生 女子）

○「夢は叶わないものだけど、目標は叶うもの」ということが印象に残っています。夢を叶えるためには目標を立てて、その目標達成に向けて努力することが大事だと気づきました。（1年生 男子）

○今までこれが限界っていうほど物事に取り組んだことがなかったので、「死ぬほどきつい」と思ったことはありませんでした。苦しい思いも辛い思いもしたくないという単純な理由です。でも、限界まで追い込むって辛いけど楽しいことだと思いました。これから頑張ることを見つけようと思います。（2年生 女子）

○限界を決めず、超えることへの挑戦が大事だとわかりました。今まで無理だと思ったら投げ出してしまっていたのですが、今より少し先に希望があると信じて諦めない意思を持たなければならないと感じました。これからは最後まで粘って自分に対しての利益をしっかりと手に入れていきたいです。（2年生 男子）

○陸上部としてハードルを教えていただきました。難しかったですが、だんだんうまくできるようになって、挑戦することの大切さを実感しました。（2年生 女子）

○私もスポーツをしていたので、その時の辛さを思い出しました。お話を聞いて、これからは限界まで挑戦し「やらない後悔」はしないようにしたいです。（3年生 女子）

	<p>実技指導について</p> <p>本校陸上部の日頃のトレーニングに積極的に取り入れられており、生徒の意識の向上にもつながっている。</p>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>講師の方の講演が生徒にとってより有意義になるために、講師のプロフィールなど用いた事前学習を行った。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>全校生徒が講演を聞くことができた。体育館の講演ということで、地域の方や保護者の方々を参加させるうえで収容人員に余裕がなく十分な案内ができなかった。</p>
<p>9来年度以降 の実施予定</p>	<p>部活動のトレーニング実践方法として活用していきたい。</p>